

## 読者のページ

「アジア医学生会議」を運営した  
自治医大6年生

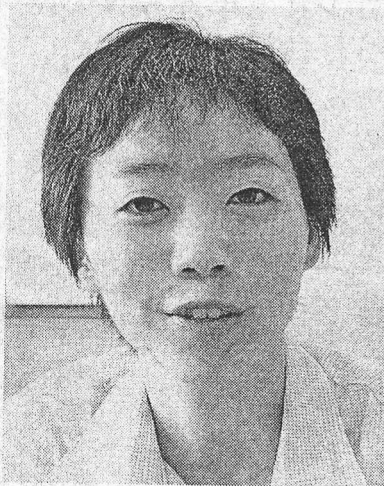
しばた わか  
柴田 和香さん

アジア各地の医学生が七月、東京に集まり、医療の現状や課題を語り合ったアジア医学生会議で運営委員会議長を務めた。「いろんな人と仲良くなれたのが一生の宝物。将来一緒に仕事ができたら面白い」とほほ笑む。

テーマには生活習慣病と、健康を自らコントロールし改善できるようにするヘルスプロモーションを選んだ。「日本人の死因で圧倒的に多い生活習慣病。今後アジア各地でも増加する恐れがあり、この病気や日本の現状を知ってもらって、それぞれの国で役立ててほしいかったら」。『医師の卵』たちへの思いだ。



約二十カ国・地域から約四百三十人が参加。急成長を続けるアジアの現状を「都市化、高齢化が進むとともに、肉体労働中心だったのが事務系の仕事が増えるなど、働き方が変わってきた。食生活の欧米化や流通の発



達で脂質やカロリー摂取も多くなる」と見る。

会議では病院見学のほか老人施設での介護体験や、支援団体の協力で野宿者と会う機会も設けられた。日本の表面だけを見てほしくなかったという。

父親の転勤に伴い中学までの大半を米国とオーストラリアで過ごした。来春からは研修医として働き、その後出身地の千葉県で、医師が足りない地域へ赴任する予定。

過去の同会議で、下水処理もままならない途上国の現場を訪れたことがある。その経験から、集団として病気を減らす「公衆衛生」に携わるのが夢だが「まずは卒業のため、目の前の勉強をしないと」と話すスポーツ好きの二十四歳。

いろんな人と仲良くなれたのが宝物。